



九州ブロックのHIV医療体制の整備に関する研究(平成29年度)

研究分担者 山本 政弘
 (独) 国立病院機構九州医療センター
 AIDS/HIV総合治療センター 部長

研究要旨

地方においても昨今のHIV医療の進歩による患者高齢化等に伴う地域における医療福祉連携の構築の促進が必要となってきた。特に感染から30年以上経つ薬害被害者は年齢的にも高齢化しつつあり、慢性期医療や福祉介護など喫緊の課題となってきただけでなく、特に地方ではその特異性から個々に違った問題を抱えるため、個別の救済も必要となってきた。本研究では慢性期医療や介護などとの連携促進とともにモデル事業としての個別救済を図った。

さらに以前より継続してきたブロック内におけるHIV医療の均てん化のため、各中核拠点病院、拠点病院の研修も行った。

A. 研究目的

昨今のHIV治療の進歩による患者の予後改善とともに患者高齢化による介護や、肝炎や腎疾患、精神疾患など多くの合併症などが、特に感染から30年以上が過ぎた血友病患者等で大きな問題となっており、専門の拠点病院だけでなく多くの一般専門医療機関や介護などの施設も含めた慢性期医療体制の構築、地域における医療連携の必要性がより一層強まっている。しかしながら未だに根強い差別偏見に基づく医療、介護拒否が特に地方においてはみられる。

本研究はこのような地方におけるエイズ医療の問題点の把握と地方におけるエイズ医療向上を目指して行なったものである。

(倫理面への配慮)

本研究においては患者人権とくにプライバシーの保護は重要であり、特に配慮を行なった。

B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察

1. 九州ブロックにおける地域連携推進

B. 研究方法

長期療養に伴う二次病院、療養施設、介護施設などにおける患者受け入れ促進などを目的として、戦

略的な研修を行なった。

C. 研究結果

(1) 長期療養施設の受け入れ

施設長などを対象とした研修会、対象となる施設の全職員を対象とした出前研修、実地研修など段階を追った研修を積み重ねることにより少しずつではあるが、受け入れ施設が増加している。(図1,2,3)

また今年度から九州ブロック医師会連合会、福岡県歯科医師会などとも連携が取れ、研修等も増えてきている。

平成29年度出前研修実績

月日	実施施設	人数
8月13日	エフコープデーサービスりんご庵光町	10
8月2日	千鳥橋病院附属大橋診療所	20
8月17日	早良病院(西区MSW研究会)	24
8月29日	田川歯科医師会	20
9月28日	特別介護老人ホームグランヴィラ大平	49
10月19日	福岡県歯科医師会	—
11月1日	有料老人ホームすばる武善館・参善館	22
11月8日	特別介護老人ホーム シルバー・サン・ホーム	41
11月11日	北九州市小倉北区医師会訪問看護ステーション	18
11月7日	やました甲状腺クリニック	35
2月6日	増田崇信歯科クリニック	10
2月7日	医療法人明陽会たかもとホームクリニック	
2月16日	ウチシルベ	
2月21日	大牟田歯科医師会	

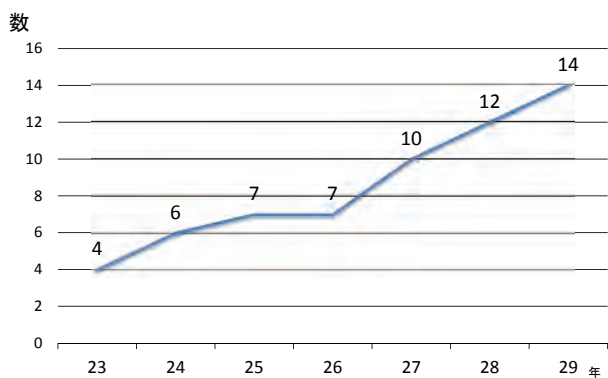


図1 当院におけるHIV陽性患者の在宅介護福祉サービス利用状況 (サービス数)

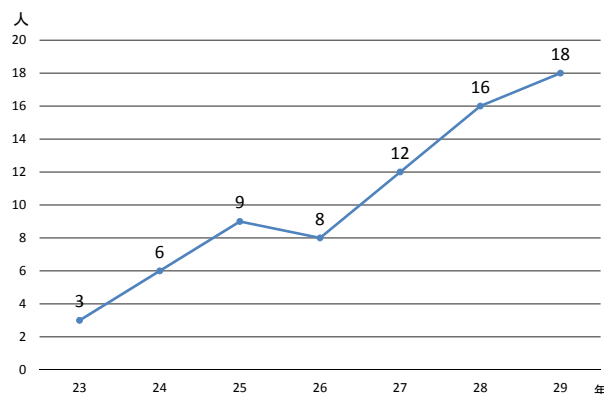
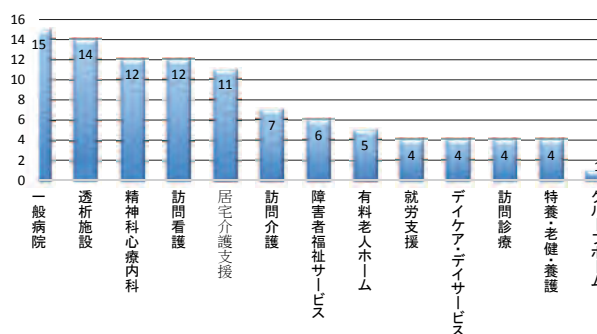


図2 当院におけるHIV陽性患者の在宅介護福祉サービス利用状況 (利用者数)

26→99か所



平成30年2月現在

図3 HIV陽性患者受け入れ可能施設 リスト掲載数

2. 九州ブロックにおける個別救済

B. 研究方法

九州ブロックは都市部と違い、薬害被害者は地方で孤立していることが多く、また血友病の後遺症や肝炎など多くの合併症もあり、個々にその問題点は違うため、個別の救済が必要である。ブロック拠点病院と地域の拠点病院の連携のもと個別に救済を行えるよう、次のような活動を行った。

(1) 地域臨床カンファレンス

地域連携、福祉など多岐にわたる問題をもつ患者をブロック拠点病院の多職種チーム、該当拠点病院のチーム、行政関係者、地元の福祉担当などとカンファレンスを行い、解決策を模索するものである。

(2) 精密検査入院パス

地域で種々の問題を抱える患者を短期間ブロック拠点病院で入院させ、精密検査を行った上で、治療方針の決定、療養環境の環境の整備等を行い、個別救済に結びつけた。

C. 研究結果

(1) (2) とともに数例の利用があり、これにより個別に救済や療養環境整備につなげることができた。

3. 九州ブロックにおける感染拡大

平成29年のデータはまだ発表されていないが、図4に示すように平成28年までのデータでは他のブロックにおけるHIV感染はここ数年横ばい～やや減少傾向にあるのに比べ、九州ブロックでは増加傾向が解消されていない。人口では約1.5倍ある東海ブロックと新規患者報告数がほとんどかわりないような状況である。県別にみると人口の多い福岡県および沖縄県が目立つが、その他の県でも少しずつ増加傾向にあり、九州全体での増加傾向が認められる。

(図5) その理由は現時点では不明であるが、図6に示されるように福岡などでは特に年齢の高い層でAIDS発症して初めて診断のつく例の増加が目立っており、年齢の高いMSM層に対する受検促進が九州ではまだまだ不十分であることが、九州ブロックにおける感染拡大の要因であることが推測される。

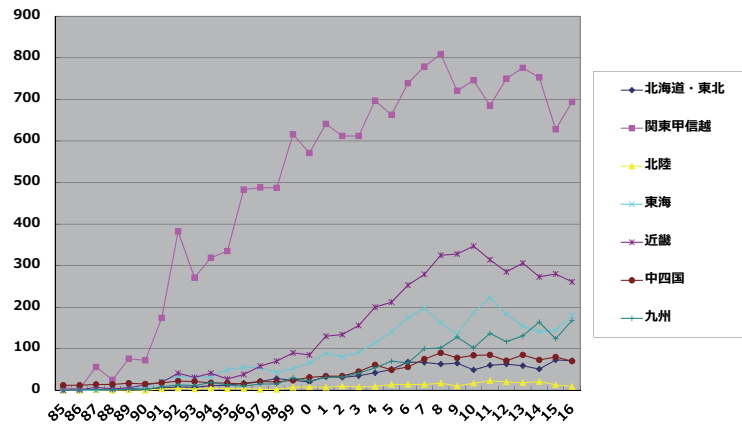


図4 地域別HIV/AIDS新規報告者数年次推移

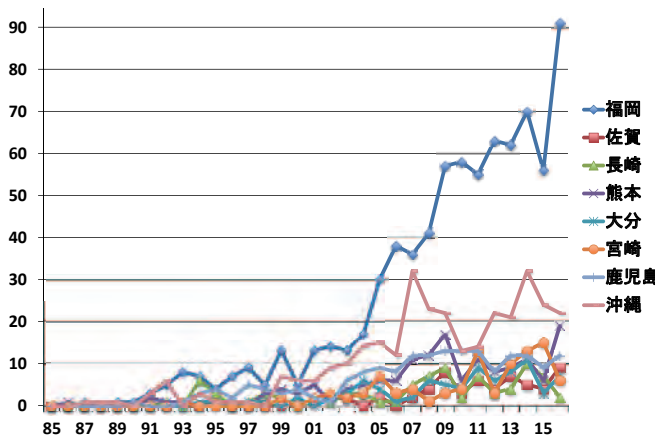


図5 九州県別HIV/AIDS報告者数年次推移

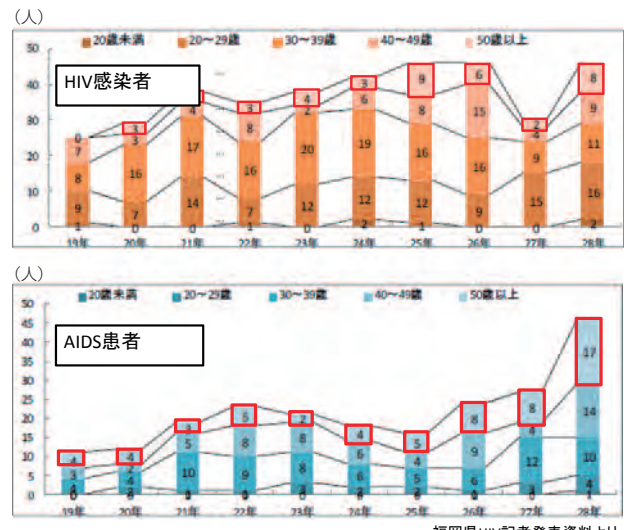


図6 福岡県におけるHIV/AIDS患者の状況(年齢区分推移)

4. ブロック内におけるHIV医療の均てん化

B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察

この研究班では長年種々の方法を用いて格差是正、均てん化を目指してきた。今年度もブロック内各県の行政、中核拠点病院、各拠点病院の協力を得てブロック内のエイズ診療における均てん化を目的とした研修会を開催した。

- (1) 均てん化を目指した中核拠点病院連絡会議（中核拠点病対象）および行政担当者会議
- (2) ブロック拠点病院にブロック内各拠点病院職員を集めて行なう通常の研修会（ブロック内拠点病院対象）
- (3) 拠点病院職員実地研修
講演形式の研修会だけでなく、ブロック内拠点病院職員対象のエイズ診療における実地研修を当院にて行なった。

(4) 福岡 HIV 保健医療福祉ネットワーク会議

E. 結論

今後も地域における医療連携構築は重要な課題であり、特に差別偏見の強い地方においては早急に対応していく必要がある。またそのなかでも感染後30年あまりが過ぎ、年齢も徐々に上がってきている薬害被害者は特に地方においてはそれぞれ多くの問題を抱えており、個別救済の必要性が高まってきているといえる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 原著論文

- 1) 成人男性のHIV検査受検、知識、HIV関連情報入手状況、HIV陽性者の身近さの実態 2009年調査と2012年調査の比較 金子典代, 塩野徳

史, 内海 眞, 山本政弘, 健山政男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一 日本エイズ学会誌(1344-9478)19巻1号 Page16-23 2017/02

- 2) Related Articles 「1996年から2013年までにARTを開始したHIV陽性患者の予後～コホート研究の総合的解析」 山本政弘 HIV感染症とAIDSの治療 Vol8.No2 2017:49-51

2. 学会発表

- 1) 当院における Tourism と年齢層の拡大 高濱宗一郎, 古賀康雅, 南留美, 山本政弘 第91回日本感染症学会総会・学術講演会 2017/4/6 2017/4/6-4/8 東京
- 2) 高IFN- γ 血症と高IL-6血症を呈する HIV-1 感染者の臨床的特徴に関する検討 上平朝子, 鈴木佐知子, 松本絵梨奈, 笠井大介, 廣田和之, 南留美, 高濱宗一郎, 林公一, 澤村守夫, 山本政弘, 白阪琢磨 第71回国立病院総合医学会 2017/11/10 2017/11/10-11 高松
- 3) 薬害HIV感染被害者の個別救済における精神的問題の支援の実態－その1－ 辻麻理子, 平野植子, 山下結以, 首藤美奈子, 高濱宗一郎, 本田慎一, 山本政弘 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 2017/11/24 2017/11/24-11/26 東京
- 4) 生活課題を抱えたHIV感染血友病患者に対するソーシャルワークの一考察 首藤美奈子, 南留美, 高濱宗一郎, 城崎真弓, 辻麻理子, 山本政弘 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 2017/11/24 2017/11/24-11/26 東京
- 5) 拠点病院定期通院者の抗HIV療法によるHIV複製制御の達成度評価－我が国のHIV感染症/エイズ診療体制整備の成果－ 横幕能行, 伊藤俊広, 山本政弘, 岡慎一, 豊嶋崇徳, 田邊嘉也, 渡邊珠代, 白阪琢磨, 藤井輝久, 宇佐美雄司, 池田和子, 吉野宗宏, 本田美和子, 葛田衣重, 小島賢一, 内藤俊夫, 安藤稔 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 2017/11/24 2017/11/24-11/26 東京
- 6) TDFからTAF変更による骨密度への影響 高濱宗一郎, 南留美, 山地由恵, 犬丸真司, 長與由紀子, 城崎真弓, 山本政弘 第31回日本エイズ学会学術集会・総会, 2017/11/24, 2017/11/24-11/26 東京
- 7) HIV感染者における末梢血単核球のテロメア長及びミトコンドリアDNA量の経時変化 南留美, 高濱宗一郎, 小松真梨子, 城崎真弓, 長與由紀子, 犬丸真司, 山本政弘 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 2017/11/24, 2017/11/24-11/26 東京
- 8) 当院におけるNRTI sparing regimenの処方状況 大石裕樹, 森本清香, 高濱宗一郎, 南留美,

西野隆, 山本政弘 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 2017/11/24, 2017/11/24-11/26 東京

- 9) 国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 湯永博之, 渡邊大, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南留美, 吉田繁, 小島洋子, 森治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 豊嶋崇徳, 佐々木悟, 伊藤俊広, 猪狩英俊, 寒川整, 石ヶ坪良明, 太田康男, 山元泰之, 古賀道子, 林田庸総, 岡慎一, 松田昌和, 重見麗, 濱野章子, 横幕能行, 渡邊珠代, 藤井輝久, 高田清式, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 岩谷靖雅, 吉村和久 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 2017/11/25 2017/11/24-11/26 東京
- 10) 外来における継続的な栄養指導の取組みについて 淵邊まりな, 辻麻理子, 長與由紀子, 城崎真弓, 犬丸真司, 高濱宗一郎, 南留美, 山本政弘 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 (ポスター) 2017/11/24-11/26 東京
- 11) HIV感染早期患者に対するMVCを加えた強化療法の効果と安全性に関する研究 白阪琢磨, 渡邊大, 山本政弘, 南留美, 金井修, 上平朝子 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 (ポスター) 2017/11/24-11/26 東京

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし